

# オープンアクセス（OA）義務化と エビデンスデータ公開への 対応を考える

国立情報学研究所  
オープンサイエンス基盤研究センター  
林正治

オープンフォーラム「公開基盤のこれからを考える」  
2023年5月31日 一橋講堂

# オープンサイエンス（OS）の推進および オープンアクセス（OA）義務化の動き

- G7仙台科学技術大臣コミュニケ(2023年5月12-14日)
  - **科学研究における自由と包摂性の尊重及びオープン・サイエンスの推進**
    - 公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援
- それに先立ち、政府は「2025年度新規公募分から即時OA開始」の方針を示している

内閣府・科学技術・イノベーション推進事務局「論文のオープンアクセスについて（国立大学協会からのヒアリング）」（2023年3月2日）



論文とデータの即時OA化に向けた動きが加速

# オープンアクセス (OA)

- 学術論文に対して誰もがインターネットを介して無料でアクセスして利用できるようにすること



Gold OA

出版の際  
OAコストを支払う  
モデル



Green OA

著者自身が  
公開可能な版を  
機関リポジトリ等で  
公開するモデル

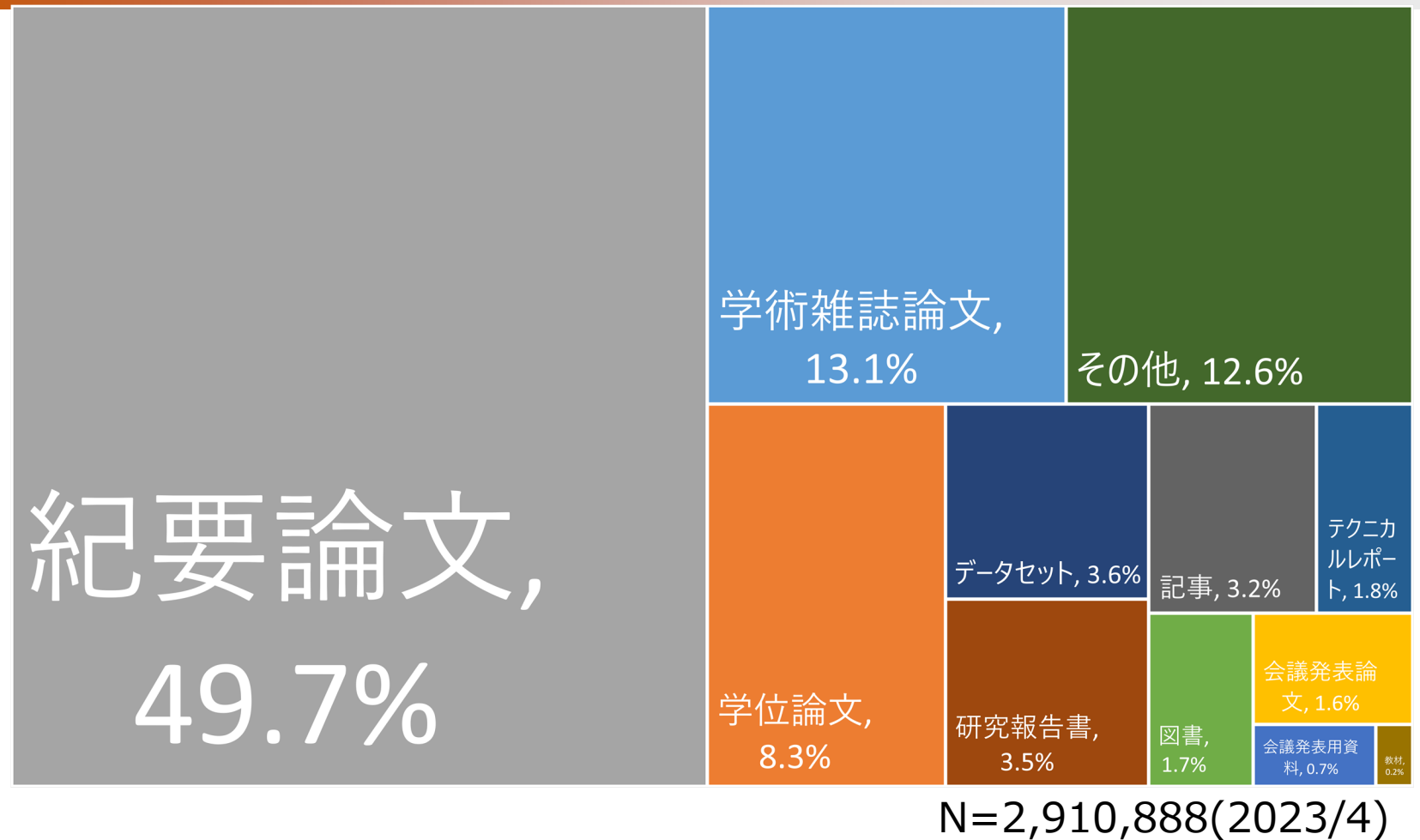


Diamond OA

出版の際の  
OAコストを  
なくしたモデル

日本は機関リポジトリによるGreen OAによるOA実現を目指してきた

# 全国の機関リポジトリ登録コンテンツ内訳



機関リポジトリは灰色文献のOA化にも貢献してきた

# オープンアクセス (OA)

- 学術論文に対して誰もがインターネットを介して無料でアクセスして利用できるようにすること



Gold OA

出版の際  
OAコストを支払う  
モデル



Green OA

著者自身が  
公開可能な版を  
機関リポジトリ等で  
公開するモデル



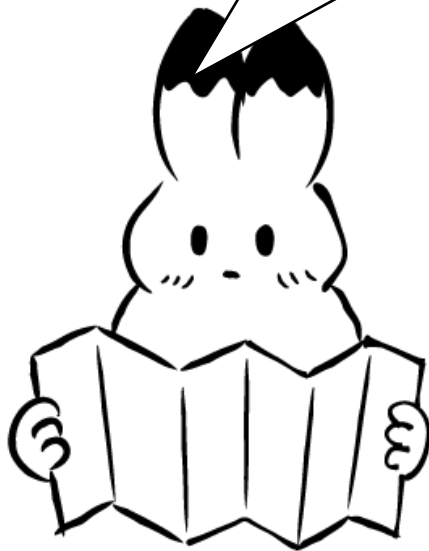
Diamond OA

出版の際の  
OAコストを  
なくしたモデル

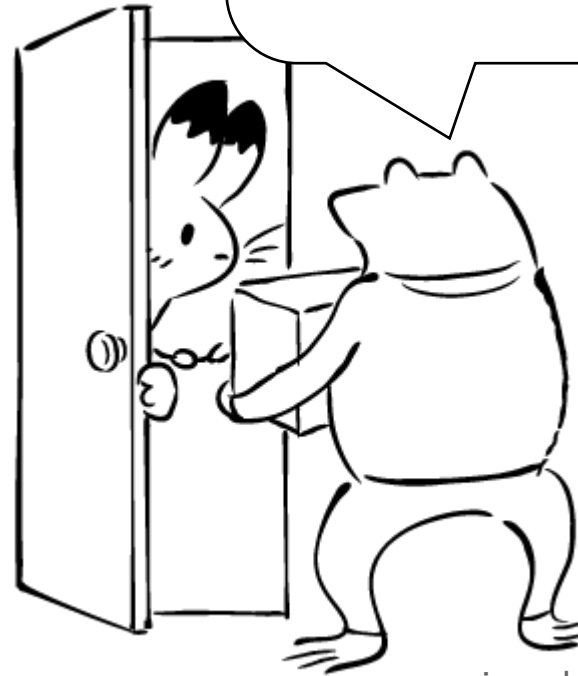
即時OAが義務化されたときに何が起こるか？

# 機関リポジトリによるOA化の取り組み

私の論文を  
機関リポジトリに  
載せられますか？

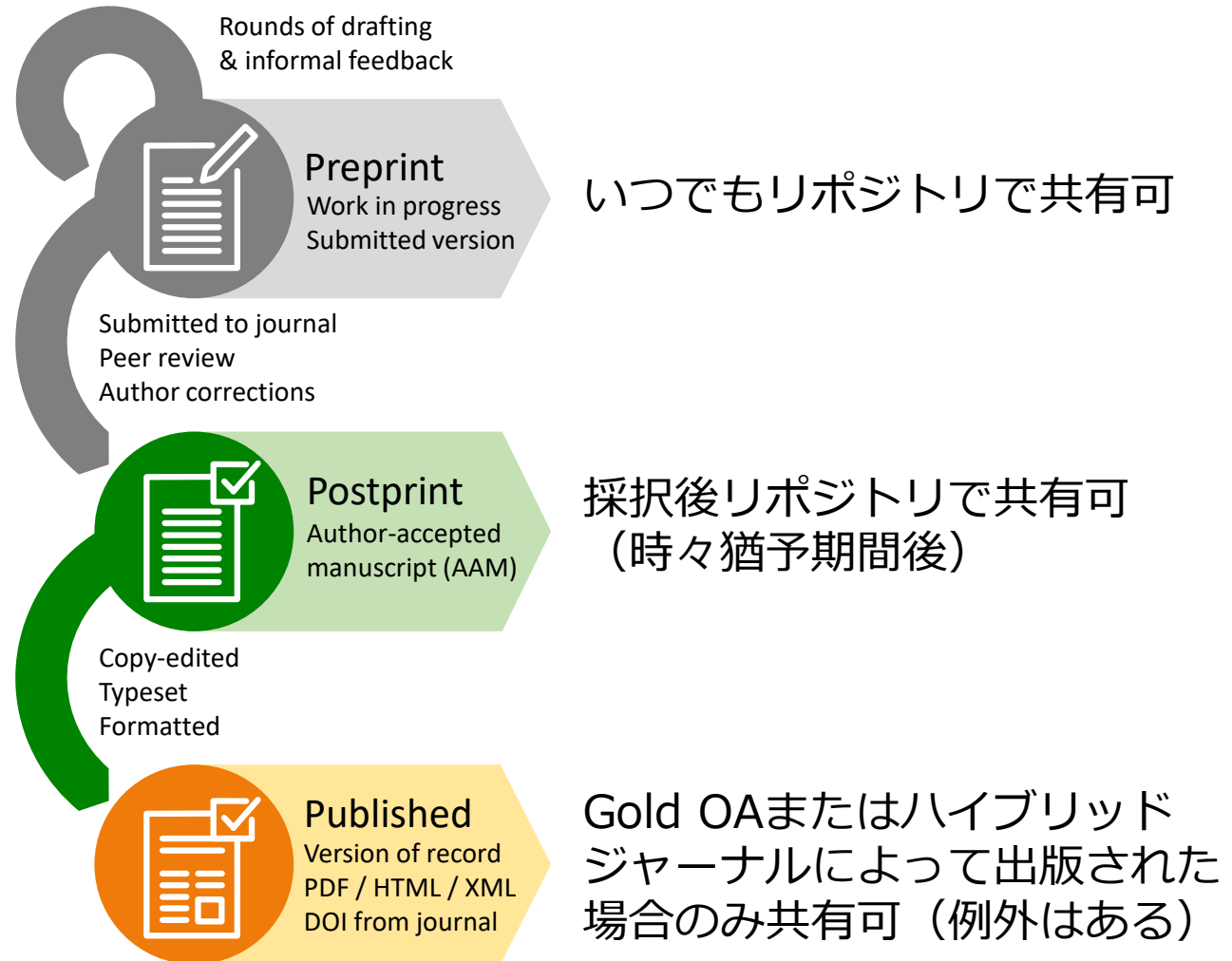


あなたの論文、  
機関リポジトリに  
載せませんか？  
お手伝いしますよ



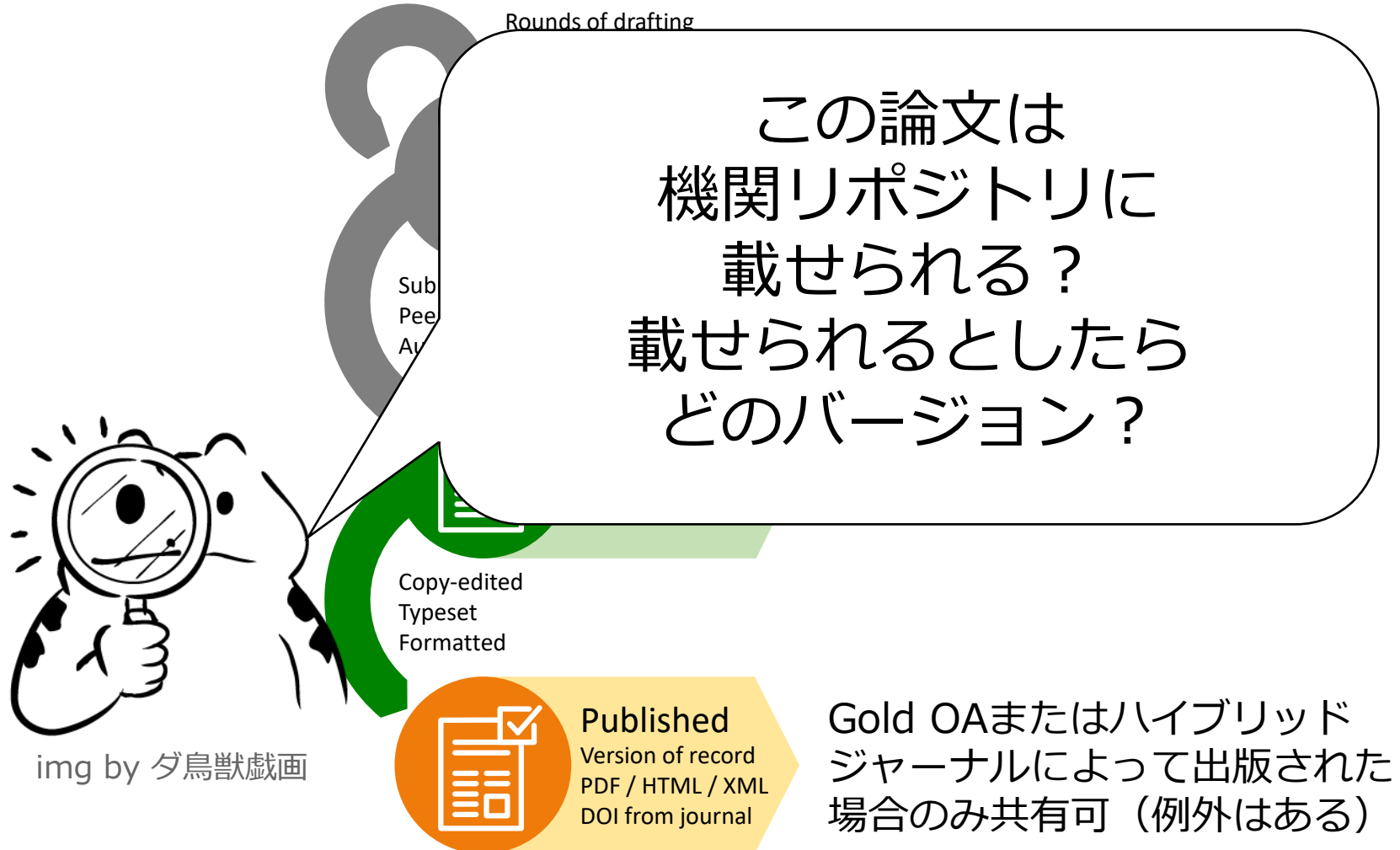
img by 夕鳥獣戯画

# 学術論文の出版ワークフロー



Typical publishing workflow for an academic journal article ([preprint](#), postprint, and [published](#)) with [open access](#) sharing rights per [SHERPA/RoMEO](#).  
Thomas Shafee – Own work; adapted from diagram by Ginny Barbour  
CC BY 4.0

# 学術論文の出版ワークフロー



その論文は機関リポジトリに載せられるのか、その調査が必要



# 著作権ポリシーの確認

著作権ポリシーは  
どうなっている？



載せても  
よいでしょうか？



img by 夕鳥獣戯画

- Sherpa Romeo
- 学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ)
- 学会、ジャーナルサイト

データベースで調べたり、承諾をとるために連絡したり  
これらの問い合わせ増に対応可能か？研究者に調べさせることは可能か？

# Sherpa Romeo(1/3)

The screenshot shows the Sherpa Romeo website interface. At the top, there's a navigation bar with tabs for 'Home', 'Search', 'FAQs', 'Support Us', 'Contact', and 'Admin'. Below this is a 'Try the new-look Sherpa' banner. The main content area is titled 'Sherpa Romeo' and 'Library and Information Science Research'. A sidebar on the left contains sections for 'Publication Information', 'Publisher Policy', and 'Related Information'. The 'Publisher Policy' section is highlighted, showing a list of publication versions with their respective open access pathways and licenses.

### Publisher Policy

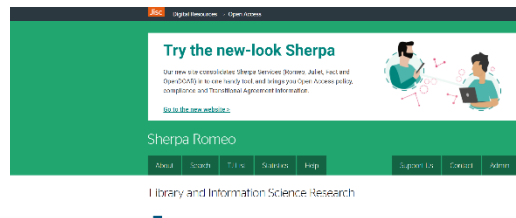
Open Access pathways permitted by this journal's policy are listed below by article version. Click on a pathway for a more detailed view.

Published Version [pathway a]	£	📄	🕒 None	🔒 CC BY-NC-ND	☰	📁 Any Website, Journal Website, +4	
Published Version [pathway b]	£	📄	🕒 None	🔒 CC BY	☰	📁 Any Website, Journal Website, +5	
Published Version [pathway c]	📄	£	🕒 None	🔒 CC BY	📁 PMC	☰	📁 Any Repository, Subject Repository, Journal Website, +4
Accepted Version [pathway a]	🕒 None	🔒 CC BY-NC-ND	☰	📁 Non-Commercial Website, Author's Homepage			
Accepted Version [pathway b]	🕒 12m	🔒 CC BY-NC-ND	☰	📁 Non-Commercial Institutional Repository, Subject Repository, Non-Commercial Website			
Submitted Version	🕒 None	📁 Any Website, +2					

<https://v2.sherpa.ac.uk/id/publication/12585>

タイトルやISSNでジャーナルのポリシーを検索、確認できる

# Sherpa Romeo(2/3)



**Publisher Policy**

Open Access pathways permitted by this journal's policy are listed below by article version. Click on a pathway for a more detailed view.

Published Version	Embargo	Licence	Location
[pathway a]	None	CC BY-NC-ND	Any Website, Journal Website, +4

Accepted Version  
[pathway b]

12m CC BY-NC-ND

Non-Commercial Institutional Repository, Subject Repository, Non-Commercial Website

Embargo

12 Months

Licence

CC BY-NC-ND

Location

Non-Commercial Institutional Repository

Non-Commercial Website

Subject Repository

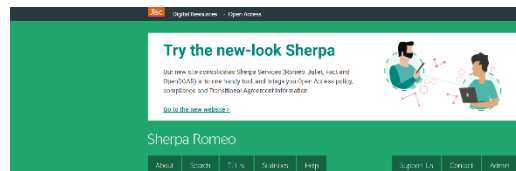
Conditions

Must link to publisher version with DOI

Published source must be acknowledged with citation

エンバーゴ期間や当該版を利用する際の条件も確認できる

# Sherpa Romeo(3/3)



## Publisher Policy

Open Access pathways permitted by this journal's policy are listed below by article version. Click on a pathway for a more detailed view.

Published Version

## Record Information

ID	12585
Policy IDs	2823,3323
Date Created	31 August 2010 14:47:43 UTC
Last Modified	15 May 2023 12:00:19 UTC
URI	<a href="https://v2.sherpa.ac.uk/id/publication/12585">https://v2.sherpa.ac.uk/id/publication/12585</a>

Sherpa Romeo information is accurate to the best of our knowledge but should not be relied upon for legal advice.

[Suggest an update for this record](#)

<https://v2.sherpa.ac.uk/id/publication/12585>

定期的に更新されているが、長期間更新されていない場合は注意が必要



# SCPJのレコード例

ID	J001177
名称	情報処理
ルビ	
別名	
ISSN	4478053
ISSN2	
PISSN	
EISSN	
NCID	AN00116625
NCID2	AA1152436X
公開規則URL	
学協会ID	S000980
名称	一般社団法人情報処理学会
個別ポリシー	
ポリシー	Green(査読前・査読後どちらでも認める)
出版社版の利用	利用可能です
公開場所	著者個人のWebサイト, 機関リポジトリ
公開条件	権利表示を行うこと, 出典表示を行うこと, 利用は著作権の範囲内に限られる旨の表示を行うこと
備考	
公開規則URL	<a href="http://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/index.html">http://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/index.html</a>
WebサイトURL	<a href="http://www.ipsj.or.jp/">http://www.ipsj.or.jp/</a>
学会名鑑URL (※)	<a href="https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/detail?d_id=G00531&amp;command_id=0">https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/detail?d_id=G00531&amp;command_id=0</a>
データ確認日	2014/1/8

著作権ポリシーの状況は把握できるがエンバーゴ期間は不明  
→即時O A対応可の判断は不可

# SCPJから見るOAポリシーの分布

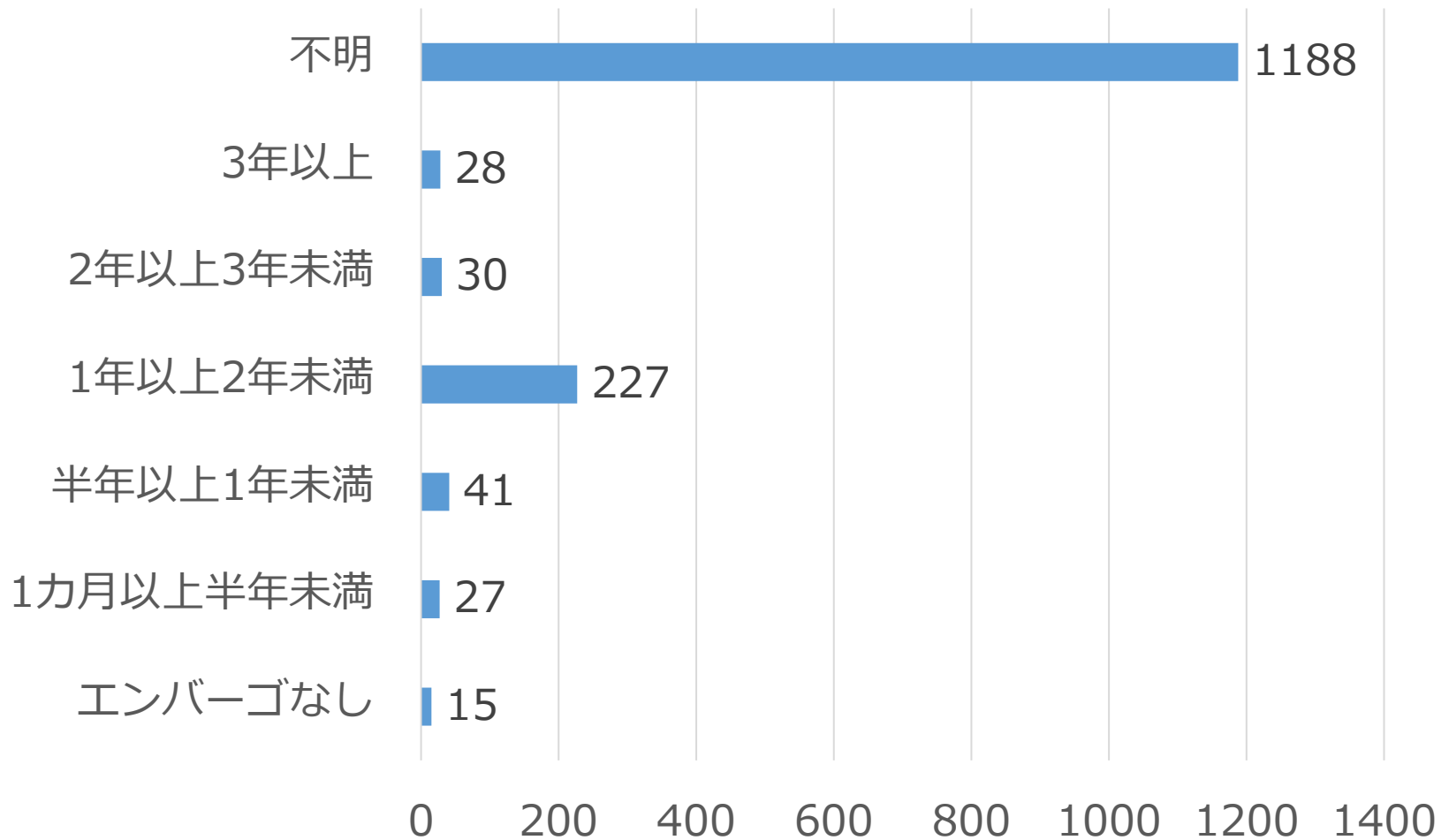
OAポリシー	割合
Gray	43.6%
Blue(査読後論文のみ認める)	38.9%
White(アーカイブを認めない)	9.2%
Green(査読前・査読後どちらでも認める)	7.9%
Yellow(査読前原稿のみ認める)	0.5%

N=3,296

学協会著作権ポリシーデータベースを加工して作成, 入手: 2023年5月21日

WhiteやGrayなど、そもそもOA化ができない  
不明な学会誌が半数を超えている

# SCPJから見る猶予期間の分布

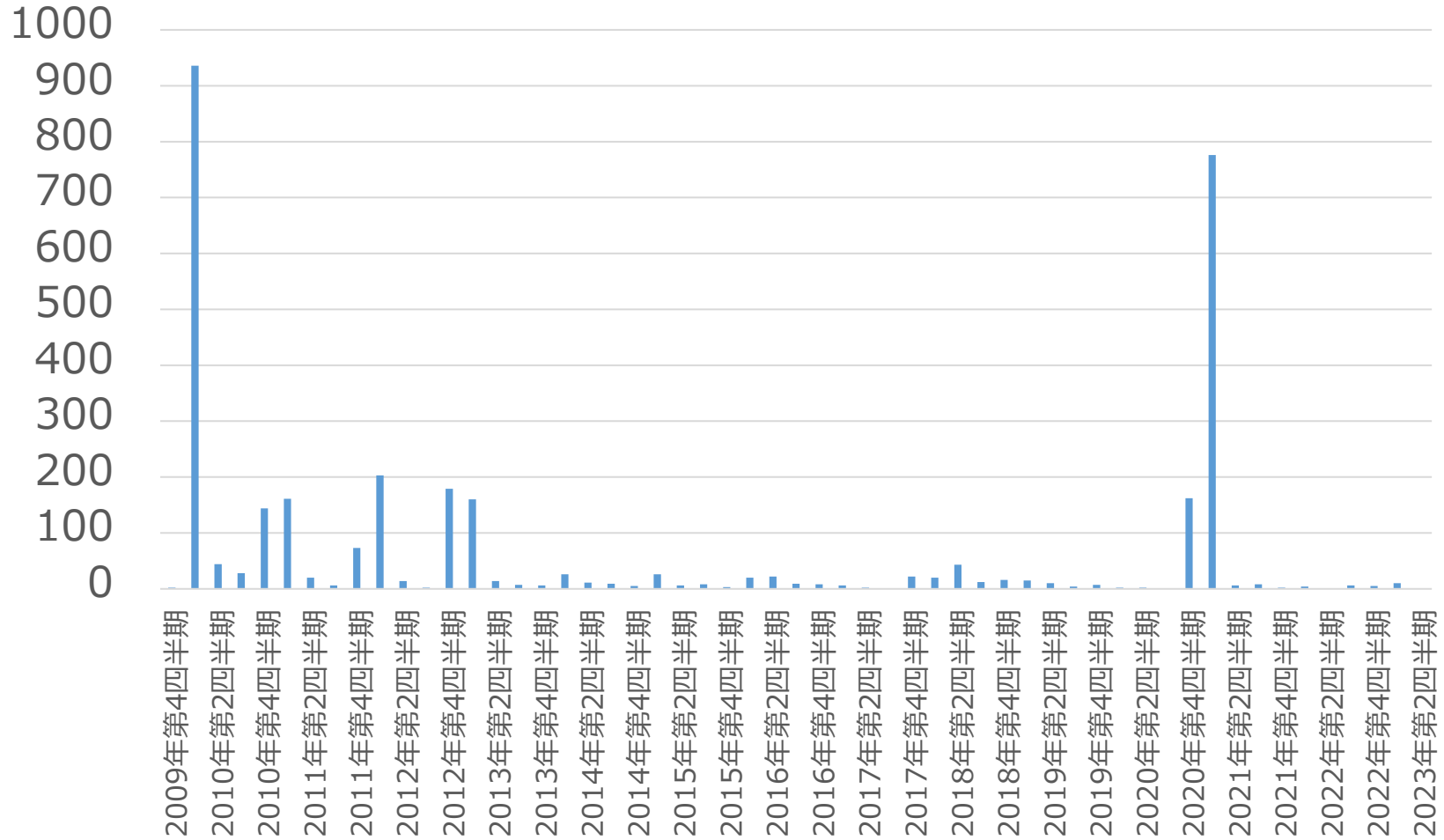


即時OA対応はわずか1%

即時OAの実施には学会側の対応が求められる大きな変革となる



# SCPJのデータ確認日



データ確認日も過去すぎると不安になる？

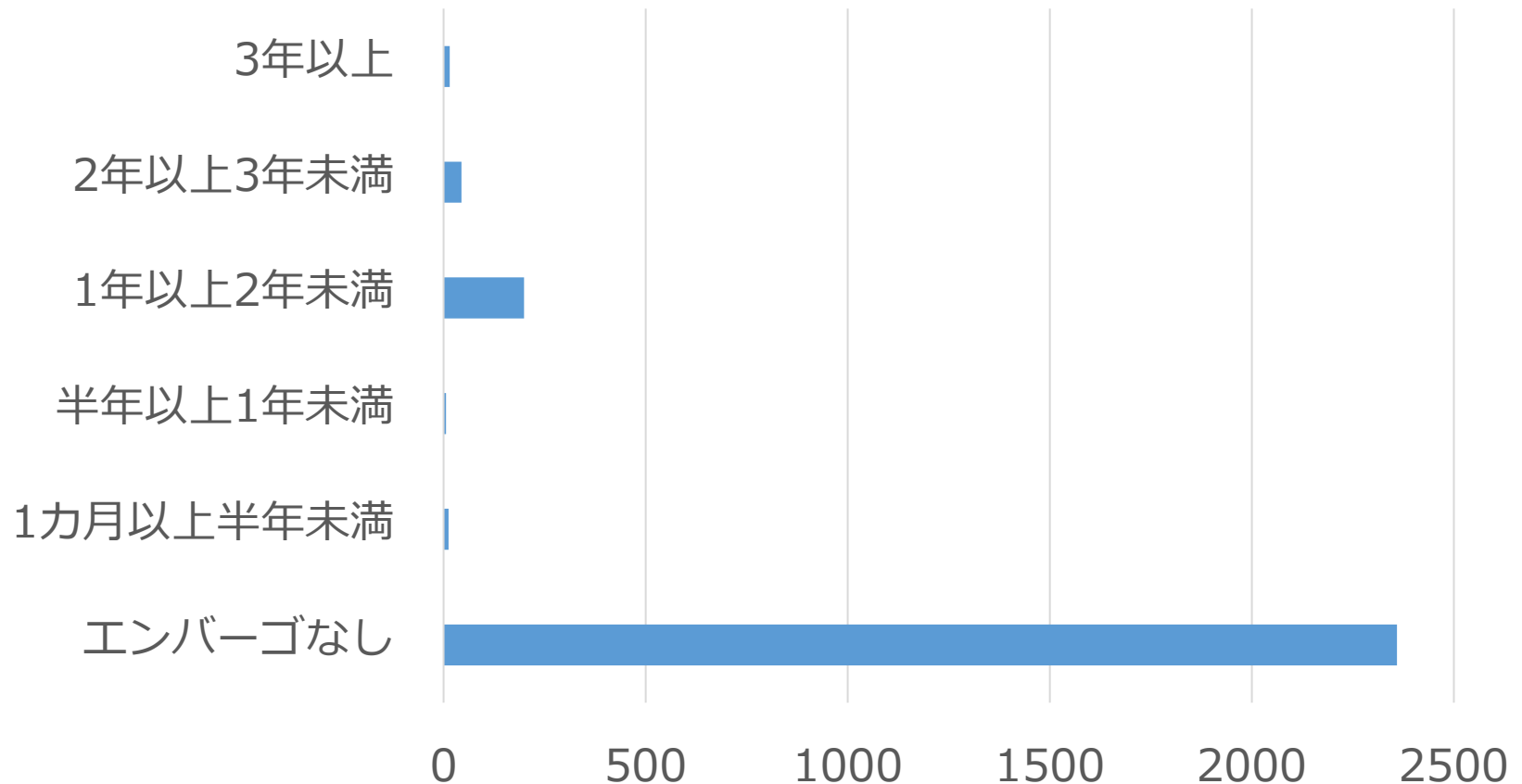
# SherpaRomeoから見るOAポリシーの分布

OAポリシー	割合
その他	22.1%
Blue(査読後論文のみ認める)	54.0%
Green(査読前・査読後どちらでも認める)	14.2%
Yellow(査読前原稿のみ認める)	5.1%
White(アーカイブを認めない)	0.2%
N=3,441	

Sherpa Romeoのデータ（2023年5月21日入手）を加工して作成  
 置き場所「any\_website」「institutional\_website」「any\_repository」  
 「institutional\_repository」「non\_commercial\_repository」  
 「non\_commercial\_institutional\_repository」はアーカイブ可能と判断

半数が機関リポジトリの格納可能とはなっていない

# Sherpa Romeoに見る猶予期間の分布



9割はエンバーゴ期間なしとなっている、でも本当？

# 実際の例

## ^ Publisher Policy

Open Access pathways permitted by this journal's policy are listed below by article version. Click on a pathway for a more detailed view.

Published Version [pathway a]	None Institutional Repository, Institutional Website, Author's Homepage
Published Version [pathway b]	None  CC BY Any Repository, Journal Website
Accepted Version [pathway a]	None Institutional Repository, Institutional Website, Author's Homepage
Accepted Version [pathway b]	None  CC BY Any Repository, Journal Website
Submitted Version	None Institutional Repository, Institutional Website, Author's Homepage

For more information, please see the following links:

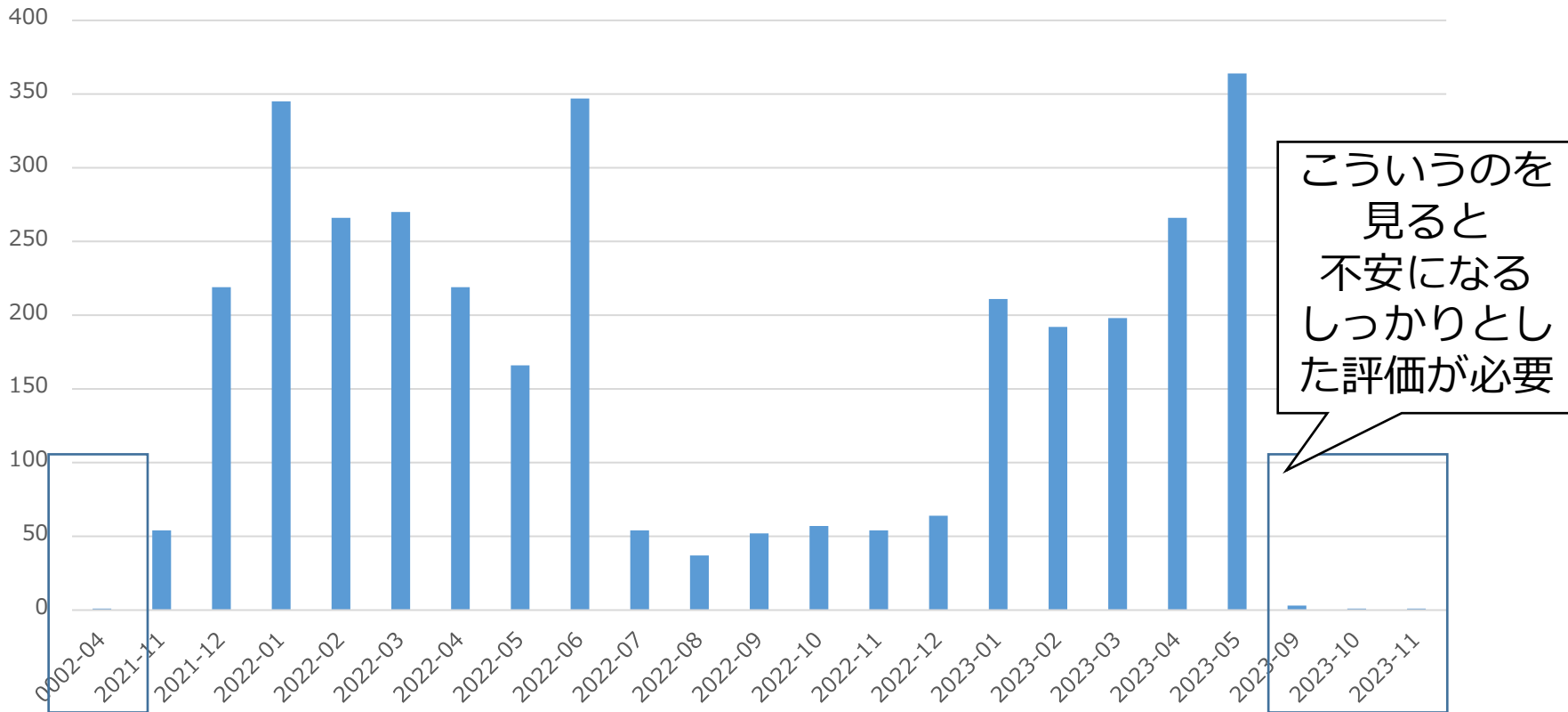
- Terms and conditions associated with the American Physical Society Transfer of Copyright Agreement
- APS Copyright Policies and Frequently Asked Questions
- Open Access

<https://v2.sherpa.ac.uk/id/publication/33103>



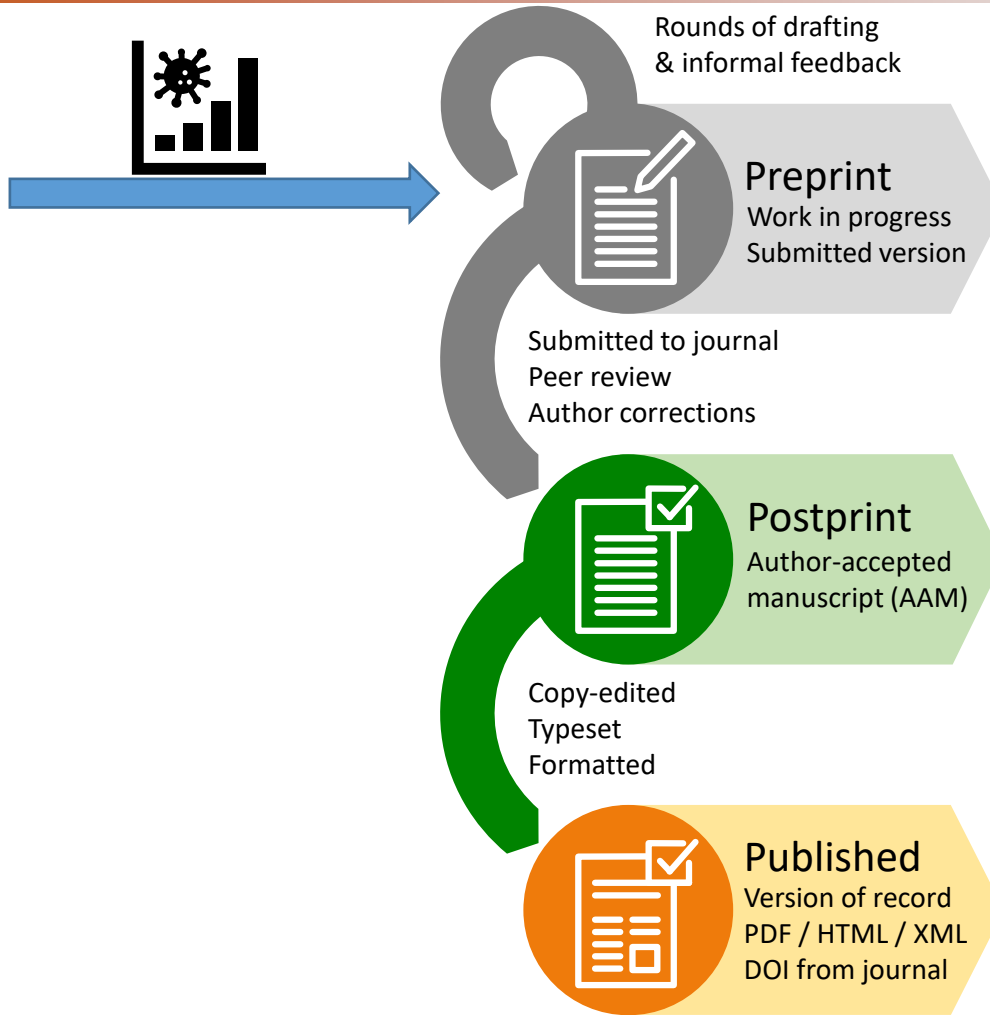
悩んでしまう表記だがFAQをみると、  
APCが求められるケースがあるようだ

# Sherpa Romeoのデータ確認日



OA義務化を考えると、ポリシ本文の確認は極力へらしたい  
 そのためにも信頼おけるポリシDBが必要  
 ジャーナル側が主体的に更新できる仕組み作りが必要  
 ポリシDBに乗っている情報をもとに処理するので、  
 ポリシDBの内容確認をしっかりとさせる等

# エビデンスデータの発生タイミング



Typical publishing workflow for an academic journal article ([preprint](#), postprint, and [published](#)) with [open access](#) sharing rights per [SHERPA/RoMEO](#).  
Thomas Shafee – Own work; adapted from diagram by Ginny Barbour CC BY 4.0

エビデンスなので論文執筆前には作成されている

# 「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」

## におけるメタデータの共通項目

(2023年3月31日時点)

	項目	必須/任意	備考
1	資金配分機関情報	必須※	公募型の研究資金を配分した資金配分機関（府省含む）の英語略称 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
2	体系的番号におけるプログラム情報コード	任意	公募型の研究資金の場合は、体系的番号のうち、「機関コード」および「施策・事業の特定コード」を表すコード 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
	プログラム名	任意	競争的研究費制度の名称
3	体系的番号	必須※	公募型の研究資金の場合は、研究費ごとに付与される体系的な番号 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
	プロジェクト名	必須※	プロジェクトの研究代表者が統括する研究開発の範囲の名称（e-Rad課題名称等） 公式な名称がない場合は、研究者の所属機関のルールに従って入力
4	データNo.	必須	管理対象データを一意に特定するための番号 公募型の研究資金を配分した資金配分機関が付与 公募型の研究資金以外の場合はデータ管理機関（項目14）が付与
5	データの名称	必須	学会資料、報告資料、測定結果などの中身の分からない名称は避ける
6	掲載日・掲載更新日	必須	メタデータの掲載日・掲載更新日
7	データの説明	必須	端的かつ中身の分かる内容を記載
8	データの分野	必須※	e-Radの研究分野（主分野）。e-Radとの連携により、自動入力される予定。
9	データ種別	必須	研究データ基盤システム上では、通常は「データセット」を標準とするが、データの特性に応じて「データセット」以外の種別を選択可能
10	概略データ量	任意	1GB未満、1GB以上10GB未満、10GB以上100GB未満、100GB以上等の区分により記載
11	管理対象データの利活用・提供方針	必須	無償/有償、ライセンス情報、その他条件（引用の仕方等）等を記載
	アクセス権	必須	公開/共有/非共有・非公開/公開期間猶予から選択
	公開予定日	必須	公開期間猶予を選択した場合、公開予定日を記載
12	リポジトリ情報	必須	現在のリポジトリ情報、あるいはプロジェクト後のリポジトリ情報
	リポジトリURL・DOIリンク	任意	情報があれば記載
13	データ作成者	任意	管理対象データを生み出した研究者の名前
	データ作成者のe-Rad研究者番号	任意	管理対象データ作成者のe-Radの研究者番号
14	データ管理機関	必須	各データを管理する研究開発を行う機関の法人名
	データ管理機関コード	任意	データ管理機関のコード
	データ管理者	必須	データ管理組織において各管理対象データを管理する担当者の名前
	データ管理者のe-Rad研究者番号	任意	管理者のe-Radの研究者番号 e-Rad研究者番号がない管理者は記入不要、ある場合は番号研究者が番号を非公開にしたい場合を除き必須
	データ管理者の連絡先	必須	データ管理者の所属機関の住所や電話番号、メールアドレス等
15	備考	任意	

# 「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」

## におけるメタデータの共通項目

(2023年3月31日時点)

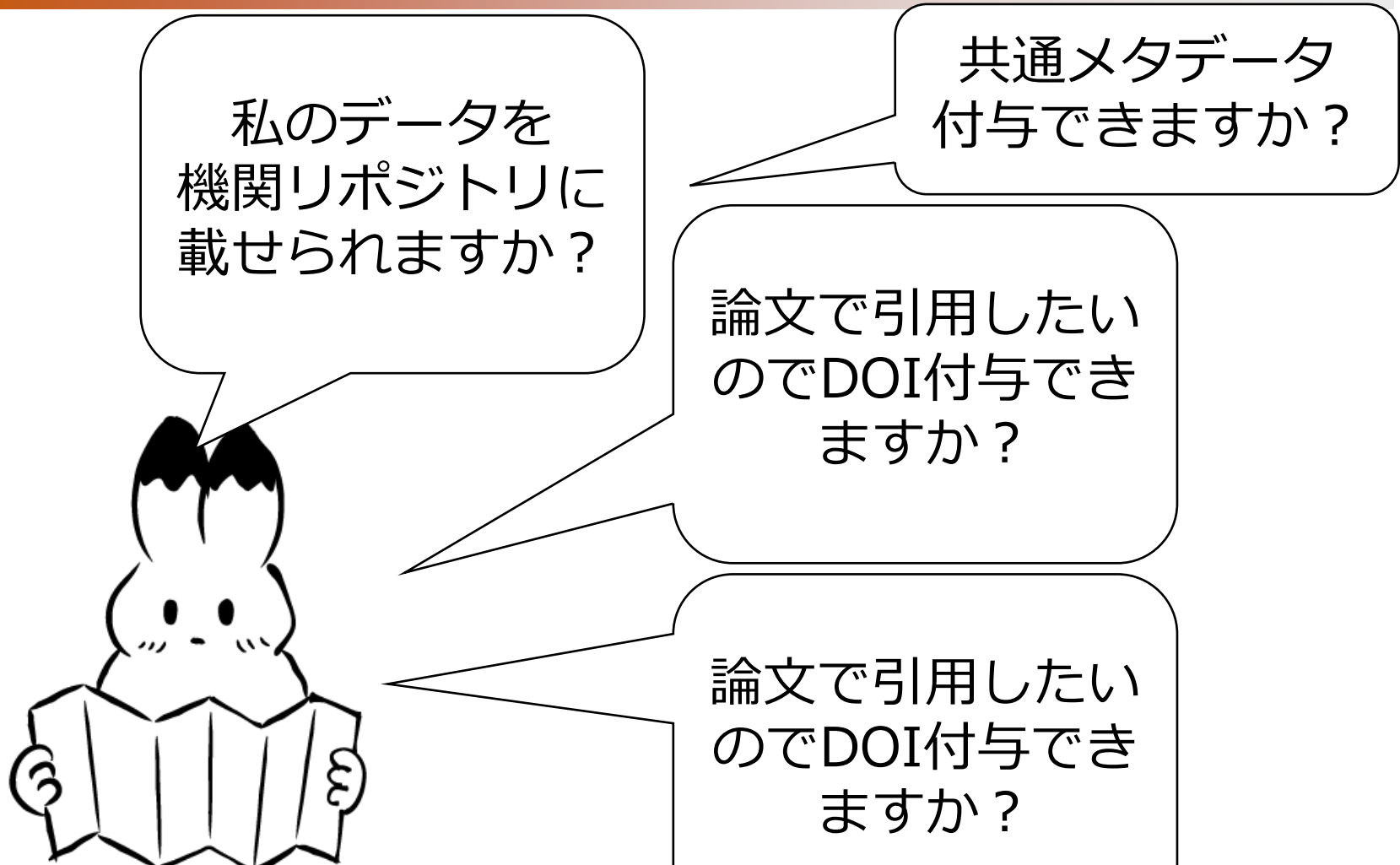
	項目	必須/任意	備考
1	資金配分機関情報	必須※	公募型の研究資金を配分した資金配分機関（府省含む）の英語略称 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
2	体系的番号におけるプログラム情報コード	任意	公募型の研究資金の場合は、体系的番号のうち、「機関コード」および「施策・事業の特定コード」を表すコード 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
	プログラム名	任意	競争的研究費制度の名称
3	体系的番号	必須※	公募型の研究資金の場合は、研究費ごとに付与される体系的な番号 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
	プロジェクト名	必須※	プロジェクトの研究代表者が統括する研究開発の範囲の名称（e-Rad課題名称等） 公式な名称がない場合は、研究者の所属機関のルールに従って入力
4	データNo.	必須	管理対象データを一意に特定するための番号 公募型の研究資金を配分した資金配分機関が付与 公募型の研究資金以外の場合はデータ管理機関（項目14）が付与
5	データの名称	必須	学会資料、報告資料、測定結果などの中身の分からない名称は避ける
6	掲載日・掲載更新日	必須	メタデータの掲載日・掲載更新日
7	データの説明	必須	端的かつ中身の分かる内容を記載
8	データの分野	必須※	e-Radの研究分野（主分野）。e-Radとの連携により、自動入力される予定。
9	データ種別	必須	研究データ基盤システム上では、通常は「データセット」を標準とするが、データの特性に応じて「データセット」以外の種別を選択可能
10	概略データ量	任意	1GB未満、1GB以上10GB未満、10GB以上100GB未満、100GB以上等の区分により記載
11	管理対象データの利活用・提供方針	必須	無償/有償、ライセンス情報、その他条件（引用の仕方等）等を記載
	アクセス権	必須	公開/共有/非共有・非公開/公開期間猶予から選択
	公開予定日	必須	公開期間猶予を選択した場合、公開予定日を記載
12	リポジトリ情報	必須	現在のリポジトリ情報、あるいはプロジェクト後のリポジトリ情報
	リポジトリURL・DOIリンク	任意	情報があれば記載
13	データ作成者	任意	管理対象データを生み出した研究者の名前
	データ作成者のe-Rad研究者番号	任意	管理対象データ作成者のe-Radの研究者番号
14	データ管理機関	必須	各データを管理する研究開発を行う機関の法人名
	データ管理機関コード	任意	データ管理機関のコード
	データ管理者	必須	データ管理組織において各管理対象データを管理する担当者の名前 管理者のe-Radの研究者番号
15	備考	任意	

公的資金による研究データの場合は共通メタデータにも準拠が必要

い場合を



# 研究データのOA化が義務化されると



問い合わせや対応工数の増加が予想される  
→研究者によるセルフアーカイブでないと回らないのではないか

# まとめ

- 公的資金による論文・データのOA化は遅かれ、早かれやってくる。それに備える必要がある。
- 著作権ポリシDBの重要度が高まる。また用途も、従来のOA対応の可否を調べるためではなく、OA義務化に対応できる投稿先かどうかを調べるためとなる。
- OA義務化により、年間登録件数が増加し、業務量も増える可能性がある。セルフアーカイブの検討も必要である。



論文・データのOA化はオープンサイエンス推進の土台  
OA義務化に対応してけばよいか、議論を深めていきたい